

# 現実を伝える 知れば変わる

キーパーズ有限公司  
代表取締役

吉田太一

なぜ、私自身がこんな内容の本を書いているのか。一作目と二作目を書き終えた時、素朴な疑問が湧いてきた。

日本初の遺品整理専門会社を設立してもうすぐ六年。ご遺族から頂く感謝の声を励みにしてお手伝いした件数は、六年間で八千件以上、自分が直接訪問した現場だけでも二千件は超える。

そして今、二冊目「遺品整理屋は見た!! 天国へのお引越しのお手伝い」を刊行した。板前から始まった私の人生は、遺品整理業という意外な職業にたどり着き、今、著者として数冊を執筆しているが、そこには矛盾や意外性、違和感を持つことはない、私にとっては実に自然な流れに沿った変化であつたと思つている。

私の著書について、読者からこんなことを言われることが多い。「この本を

出版することは、孤独死を防ぐことに

は繋がるが、お宅の会社の仕事を減らしているようなものじゃないですか?」

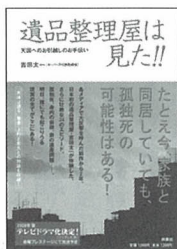
こう言われると、「その通りです」としか言いようがないのだが、やはり私にとっては矛盾や違和感はなく、使命感さえ感じ、私以外のスタッフのやる気にも大きな効果を与えている。

この本には、実際に現場で見た社会の病んだ現実を伝える内容が詰まっている。孤独死とは何か、またなぜ孤独死に至ってしまうのか、その背景は。読後にはそのことに気付いていただける内容になっているつもりだ。

遺品が語る死にざまは、それぞれの人の生きざまを物語っていることが多い、故人の人生を凝縮して感じ取ることができると、読者が人の死や遺品から見えてくる

命の尊さと人間の存在価値を意識し、生きがいとは何かということまで感じ取ってもらえればありがたい。現実を知りショックを受けると、人は危機感

を持ち自発的に予防や対策に取り組み。その意味では、この本を読んだ方々は、孤独死する可能性は低くなるだろう。いつか、私の仕事が社会にとって不要になっても本望だ。孤立した独居老人やその予備軍の激増が、今後の日本社会へ与える影響は計り知れないが、まだこの領域に本格的にメスが入れられていないことに恐怖さえ感じる。



扶桑社  
1,260円 (税込み)  
252ページ

## 自著自賛

### 遺品整理屋は見た!! 天国へのお引越しのお手伝い